

# 成田山仏教図書館蔵忍頂寺務旧蔵本について

山本和明

はじめに

川端論文に指摘があるように、忍頂寺務自身の手によって、その蒐書は存命中に多く図書館等に寄贈されている。今日確認しうる中では、神戸市立図書館（本書川端論文参照）・成田図書館（現成田山仏教図書館）・天理図書館に纏まった点数が確認できる。本稿は、成田山仏教図書館に寄贈された忍頂寺務旧蔵本に関し報告するとともに、その蒐蔵図書のうち、特に注目すべき書冊につき紹介、考察するものである。

成田山仏教図書館は、図書館概要によれば、明治三十四年、成田山中興第十五世貫首石川照勤僧正により「私立成田図書館」として設立、翌年開館公開された。現在は成田山仏教図書館として、（財）成田山文化財団によって運営されている公共図書館である。同図書館の蔵書は今日、検索システム「SIMPLE・OPAC蔵書検索システム」によって、「請求記号／書名／叢書名／著者名／出版年月日／出版社」といった記載事項について検索可能であるが、寄贈者名については確認できない。今般の調査にあたり、同図書館に相談したところ、館員専用図書マスターデータには登録されているとのことであった。成田山仏教図書館のご好意により、同データにより検索いただき、ヒットした一三九件の図書すべてにわたり稿者が実見

し、取り纏めたものが、後掲「成田山仏教図書館所蔵一覧」である。昭和六十三年（一九八八）より、書物を点検されて遡及的にデータ登録がなされたことであるが、忍頂寺務による寄贈本のデータとして相応に取り纏めることができた。調査にご協力下さった成田山仏教図書館に心より深謝申し上げる。

もちろん、寄贈図書印等による確認ゆえ、印の捺されていないものは如何ともしがたい。たとえば「陳書」一〇十、十二（昭和六年八月～十六年五月、神戸陳書会）などの収蔵も成田山仏教図書館に確認されており（請求一〇一六）、おそらく務による寄贈書と目される。ただ残念ながら確定することが出来なかつた。あるいはまだ他の書籍類が務により寄贈された可能性も考えられるが、まず大略は確認し得たとして宜しかろう。

寄贈は数度に涉っている。詳細は後掲「成田山仏教図書館所蔵一覧」を確認いただきたいが、神戸市立図書館蔵忍頂寺旧蔵本一覽（「寄贈台帳控一簿」、川端論文参照）と照合するに、神戸市立図書館へは昭和十三年四月に初めて寄贈記載があり、昭和二十一年七月に記載を終えている。「成田図書館」への寄贈時期と一年余りしか交錯しないことも特徴としてあげることが出来ようか。

忍頂寺文庫・小野文庫はそもそも忍頂寺務その人の手許に持ち続けた書

冊・原稿などであった（神戸市立図書館については川端論文を参照された）。「成田図書館」の場合、忍頂寺務自身の草稿などは確認できず、会員頒布の非売品を含め、出版された書冊が大半である。

ただし、そのなかには『久恒翁採録』二十五巻、『北海道関係文書』というように、久恒翁自筆・忍頂寺務製本の冊子が含まれている。忍頂寺文庫所蔵『久恒翁採録』五点、神戸市立図書館『久恒翁採録』四十巻と併せて、従来知られていた『久恒翁採録』全七十巻が今日現存することになる。

また、何よりも特筆すべきは七世市川團十郎による『遠々見ます』と『しもふさ身旅喰』の存在であろうか。両書については務自身、「七代目團十郎の配り本」（『書物展望』第一巻第四号、昭和六年十月刊）、「しもふさ身旅喰」（『書物展望』第九巻第七号、昭和十四年七月刊、同年四月二十五日脱稿）という論考で考察を加えており、詳細はそちらに譲りたい。

なお、この二点ともども、飯倉洋一、箕田将樹両氏により「翻刻 忍頂寺文庫蔵 七代目團十郎の配り本二種」として翻刻されている（研究報告書『忍頂寺文庫・小野文庫の研究』二〇〇六年三月）。また同誌に、福田安典氏の論考「団十郎と忍頂寺務 新出書簡をめぐって」があり、成田図書館との関わりを巡る言及がある。

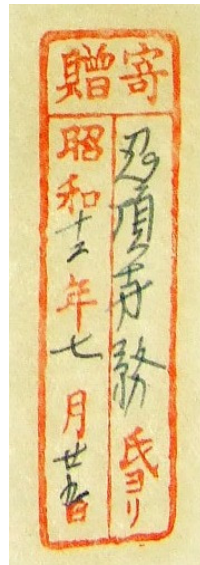
他にも「兵庫県民俗資料」や、謄写版印刷雑誌として夙に有名な「富士のや文庫」も、数点欠号あるものの纏まって所蔵されている。以下、所蔵リストを呈示した上で、そうした書冊中にある務書き入れの指摘、ならびに特に注目した書冊について触れておきたい。

### 成田山仏教図書館所蔵一覧

以下の表は、成田山仏教図書館所蔵データ中、忍頂寺務寄贈が確認できたものに関し作成した一覧表である。データに記載したのは受入年月日、

書名、著编者名、請求記号、出版年、備考として冊数・出版社・価格等の各情報。これらの項目は、二〇一一年二月二五・二六日の二日間で稿者が実見のうえ確認した（忍卒の間に確認したものゆえ、あるいは誤りもあるかも知れぬ。ご寛恕いただきたい）。一覧表では図版を呈示しづらいため、今二点掲げておく。

図版1 寄贈（受入）図書印



図版2 忍頂寺務自筆題簽『しもふさ身旅喰』帙



受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
T13.3.24	大江戸之研究延寿清話第1～11輯(合綴本)	忍頂寺務編	3919 - 0004	(省略)		「望洋楼章」印あり、二号T13.4.23寄贈、以下印なし、非売品、製本は成田図書館(私立成田図書館)による。合綴1冊
S2.8.14	自己暗示に应答する吾人の一大潜在力(独りで病を治す法)	西村祐辨	029 - 0097	T15.11.15	警醒社	1円、再版
S6.5.29	産業合理化図表選	平井泰太郎編	に9006 - 0001	S5.5.18	ぐろりあ そさえて	30銭
S8.1.16	心中くどき二十種	忍頂寺務編	ろ2149 - 0001		私家版	謄写刷、非売品
*****	富士のや草紙 2～5, 9, 10, 12～18, 20～36, 38, 謄写刷残	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001		富士のや文庫	謄写刷、非売品、37は所在不明、19「佐渡」は阪大小野文庫所蔵(918.5/ON0/222)
S8.3.3	名物とおもちや(富士のや草紙2)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 002	T14.10.31	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	藤咲く頃(富士のや草紙3)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 003	T15.6.7	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	因伯玩具1.2(富士のや草紙4.10)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 004	T15.9.24	富士のや文庫	謄写刷、非売品、10号はS2.7.23刊、各1冊
S8.3.3	東海道(富士のや草紙5)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 005	T15.10.31	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	手壺(富士のや草紙9)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 009	S2.6.15	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	不明堂小伝(富士のや草紙12)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 012	S2.8.30	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	紅隈歎語(富士のや草紙13)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 013	S2.11.20	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.3	松の雫(仮表紙題「市川水の流」)	松岡一男編	ろ3916 - 0001	S7.10.28	みどり屋(名古屋)	謄写刷、非売品
S8.3.3	伐株出土古墳図録	板愈良(龍齋)	ろ4104 - 0002	S2.2.2	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	美德山記行(富士のや文庫)	板愈良(龍齋)	ち6330 - 0001	S3.8.25	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	無礙光(富士のや文庫)	板愈良(龍齋)	ち6900 - 0001	S3.12.20	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	魚硯(富士のや草紙14)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 014	S3.3.7	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	鶴を見る日(富士のや草紙15)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 015	S6.6.22	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	江戸姉さま(富士のや草紙16)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 016	S3.8.23	富士のや文庫	謄写刷、非売品

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S8.3.4	安来千軒(富士のや草紙17)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 017	S3.9.20	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	柳娘(富士のや草紙18)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 018	S3.9.25	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	碧壺歎(富士のや草紙20)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 020	S4.2.20	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	瑞色春七草(富士のや草紙21)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 021	S4.2.28	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	道成寺(富士のや草紙22)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 022	S4.8.5	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	一畳亭米山(富士のや草紙23)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 023	S4.8.16	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	薔薇の頬(富士のや草紙24)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 024	S4.10.18	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	丹鹿帖(富士のや草紙25)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 025	S4.11.30	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	紫草帖(富士のや草紙26)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 026	S5.1.31	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	白馬帖(富士のや草紙27)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 027	S5.7.15	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	鳥上峰(富士のや草紙28)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 028	S6.7.3	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	草にそよぐ(富士のや草紙29)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 029	S6.9.21	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	人形浄瑠璃覚帳(富士のや草紙30)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 030	S6.10.8	富士のや文庫	謄写刷、非売品、板龍齋宛淡路島守書簡(S5.1.25)掲載
S8.3.4	天筆和合楽(富士のや草紙31)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 031	S7.3.8	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	松風帖(富士のや草紙32)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 032	S7.6.10	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	播磨屋仏草(富士のや草紙33)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 033	S7.7.15	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	青鳩調(富士のや草紙34)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 034	S7.8.10	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	柳もやう(富士のや草紙35)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 035	S7.9.25	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.3.4	魚拓(富士のや草紙36)	板愈良(龍齋)	ろ0560 - 0001 - 036	S7.11.20	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S8.11.16	文献第三輯	桂又三郎	ろ0115 - 0001	S2.12.5	文献研究会(岡山)	謄写刷

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S8.11.16	江戸往来第四号	松川弘太郎	ろ2105 - 0001	S2.12.5	江戸文芸同好会	謄写刷、20銭、務論文「センボ追考」掲載
S9.5.20	潮来舟	忍頂寺務編	2145 - 0004		私家版	謄写刷、非売品
S9.5.20	郷土童謡集	平松朝夫編	2550 - 0002	S8.2.20	大阪池田師範学校	謄写刷、非売品
S9.5.20	敵討崇禅寺馬場（郷土史談第一編）	後藤捷一編	4159 - 0003	S7.11.25		非売品
S9.5.20	銭屋事件詮議留		5017 - 0001	S7.7.5	石川県図書館協会	改装本
S9.5.20	家蔵楠公関係書目	川島右次	に0130 - 0003	S8.7.12	私家版	非売品、同好頒布四十部
S10.3.25	木戸公遺蹟久畑の関碑記念帖	広戸正義編	015 - 1373	S6.10.10	出石郡教育会	非売品
S10.3.25	家宝連瑾	石天基（前川清二校正）	1745 - 0003	S8.11.19	松風軒（神戸）	非売品
S10.3.25	東西談	前川清二	へ0940 - 0001	S9.6.23	私家版（武庫川）	非売品、著者謹呈本
S10.3.25	今昔談	前川清二	へ0940 - 0002	S5.12.1	ぐるりあ そさえて	著者謹呈本
S10.3.25	神儒偶談	慈雲飲光尊師	へ1111 - 0001	S6.11.25	高貴寺	再版
S10.3.25	萌黄綸子（富士のや草紙38）	板愈良（龍斎）	ろ0560 - 0001 - 038	S8.4.30	富士のや文庫	謄写刷、非売品
S10.3.25	宮観院追遠集	大久保誠一郎	ろ2128 - 0002	M29.10.8		井伊直弼37回忌追遠
S10.9.25	深みとり	高木展為ほか	ろ2128 - 0003	M25.8.2	故井伊直弼朝臣祭典事務所	非売品
S11.3.3	関東兵衛第一	松川弘太郎	6631 - 0003	S9.1.1	江戸探訪会	謄写刷、相州くげ沼郷土研究同志会・江戸探訪会雑誌
S11.3.3	関東兵衛第二	松川弘太郎	6631 - 0003	S9.2.1	江戸探訪会	謄写刷、後ろ表紙に務書入あり
S11.3.3	関東兵衛第三	松川弘太郎	6631 - 0003	S9.6.1	江戸探訪会	謄写刷
S11.3.3	関東兵衛第四	松川弘太郎	6631 - 0003	S9.11.15	江戸探訪会	謄写刷
S11.6.3	旧夢会津白虎隊	永岡清治	4150 - 0005			改装本
S11.6.3	燕庵遺稿及追憶篇	武井三代吉稿	4430 - 0118	S9.12.27	原田甚四郎（西宮市）	非売品
S11.6.3	贈従五位入沢恭平先生日記	入沢達吉編	4430 - 0158	T13.8.1		非売品

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S11.6.3	蝦夷物語	渡辺タカシ 録記	ズ4188 - 0001	S10.11		謄写刷、高田嘉兵衛事蹟 を記す
S11.10.15	新釈和歌叢書外編民謡小唄 新釈	松村英一	2145 - 0010	S2.2.20	紅玉堂書店	改装、85銭
S11.10.15	銀座解剖図変遷史篇	石角春之助	4611 - 0010	S9.7.30	丸之内出版	1円20銭
S11.10.15	完成記念浜町誌	区画整理完 成記念会編	4611 - 0012	S2.11.12	第十二地区土地 区画整理完成記 念会	非売品
S11.10.15	兵庫県郷土美談	兵庫県郷土 史研究会	4645 - 0007	S3.8.30	創生社	第10版、30銭
S11.10.15	馬関土産 一名馬関繁昌記	雪松堂主人 (宮崎勇 熊)	4653 - 0003	M30.1.13	馬関山名曲江堂	書票「森谷書房」
S11.10.15	白山花街廿周年きねん 白 山繁昌記	島田豊三編	6635 - 0005	S7.12.25	白山三業株式会 社	2円50銭
S11.12.13	兵庫県民俗資料1	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.5.10	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料2	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.6.1	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料3	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.7.15	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料4	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.8.30	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料5	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.9.25	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料6	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.11.10	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料7	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S7.12.1	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料8	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S8.2.10	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料9	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S8.5.20	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料11	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S8.9.4	兵庫県民俗研究 会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料13	兵庫県民俗 研究会編	4104 - 0013	S9.4.1	兵庫県民俗研究 会	なかに一枚刷「楠公資料 展覧会出品目録」(4月5 日より11日まで、神戸そ ごう、主催大阪毎日新聞 社)

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S11.12.13	兵庫県民俗資料14	兵庫県民俗研究会編	4104 - 0013	S9.7.25	兵庫県民俗研究会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料15	兵庫県民俗研究会編	4104 - 0013	S9.11.15	兵庫県民俗研究会	
S11.12.13	兵庫県民俗資料16	兵庫県民俗研究会編	4104 - 0013	S10.2.10	兵庫県民俗研究会	
S11.12.13	皇室御紋章之起源	河内祐憲	4498 - 0003	T13.9.30	御紋章鑽仰会	第2版、非売品
S11.12.13	蹇蹇録	陸奥宗光	5208 - 0002			M28跋
S11.12.13	展覧目録	古書趣味の会編	ろ0130 - 0006	S3.8.12	古書趣味の会	忍頂寺洒落本十種出品
S11.12.13	趣味叢書第十三編 覗き眼鏡口上歌	河本正義	ろ3990 - 0001	S10.1.1	土俗趣味社	謄写刷、非売品
S12.4.2	初台雑記	三宅雪嶺	0912 - 89	S11.11.25	秀文閣書房	書票「東京神田三省堂」
S12.4.2	風月談	前川清二編	へ0940 - 0003		養真書屋(神戸御影)	非売品
S12.4.2	住吉大社御文庫貴重図書目録		ろ0130 - 0005	S8.5.20	大阪書林御文庫講	非売品
S12.7.25	淡路方言資料	玉岡松一郎	2843 0002	S8.7.27	兵庫県民俗研究会	謄写刷
S12.7.25	明治の演劇	秋庭太郎	3916 - 0007	S12.3.15	中西書房	著者謹呈本、50銭
S12.7.25	新風土記叢書1 大阪	宇野浩二	4643 - 0003	S11.4.4	小山書店	書票「阪急百貨店書籍部」
S12.9.17	神戸事変と瀧善三郎	蔵知矩	4184 - 0003	S12.7.15	岡山堅石園	川嶋右次序文、80銭
S12.9.17	明治好音集	岡部啓五郎編	ろ2010 - 0002	M8.3	太田金右衛門	
S12.12.22	淡路古城記	畠田藤左衛門著、川嶋禾舟識	4184 - 0004	S12.10.1	川嶋右次	謄写刷、非売品
S12.12.22	東北遊	藜藿庵青岐	ろ2138 - 0001	(寛政8)		謄写刷、淡路出身俳人
S12.12.22	巨龍山房集後編	福巖寺滝宜睦	ろ2217 - 0001	S12.7.18		非売品
S12.12.22	志士一定文八伝	山口幸三郎撰	ろ4430 - 0006	S12.7.10		非売品、一定文八は淡路出身
S13.7.10	舞踊芸話	坂東三津五郎	3927 - 0004	S12.2.20	建設社	4円80銭

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S13.7.10	(久恒翁採存1) 神楽の由来	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 001			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存2) 歌垣	小笠原久恒	ろ2140 0001 - 002			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存3) 猿楽	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 003			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存4) 田楽	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 004			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存5) 白拍子・延年舞	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 005			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存6) 空也念仏	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 006			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存7) 箏曲	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 007			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存8) 三味線	小笠原久恒	ろ2410 - 0001 - 008			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存9) 流行唄の変遷	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 009			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存10) 弄齋投節等	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 010			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存11) 壬生狂言	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 011			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存12) 踊歌	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 012			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存13) 獅子舞	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 013			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存14) 猿舞・万歳	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 014			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	(久恒翁採存15) 住吉踊其他	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 015			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用
S13.7.10	北海道関係文書	小笠原久恒	ろ4188 - 0002			2冊
S13.12.13	訓蒙耶蘇物語	キリスト	1308 - 0013	M14.3		15銭、「忍頂寺蔵書章」印
S13.12.13	支那小説史	魯迅著、増田涉訳	2474 - 0001	S10.7.24	サイレン社	5円、書票「高田書店」(神戸元町)
S13.12.13	外国通信便覧 外国電報と国際電話	国際電気通信株式会社	8900 - 0002			非売品
S14.2.24	山崎闇斎と其門流	伝記学会編	1831 - 0006	S13.1.10	明治書房	2円80銭、書票「Fuzambo Tokyo」
S14.2.24	三木戦史	小阪恒三郎	4184 - 0007	S13.2.5	三木町役場	非売品

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S14.2.24	警察と社会の表裏観	高橋重蔵	5154 - 0005	S13.11.5	警眼社	4版、1円
S14.5.18	雨安居荘雑筆	伊庭孝遺 著、堀内敬 三編	3809 - 0003	S12.3.21	信正社	2円、書票「文峇書房」 (神戸市灘区)
S14.5.18	贈正五位鈴木重胤真人物	樹下快淳編	4430 - 0169	S14.3.1	遣風顕彰会	8版、非売品、鈴木重胤 は淡路出身
S14.5.18	為学要説	三宅尚斎	ろ1834 - 0001	S11.7.1	虎文斎	
S14.5.18	黄庵詩文	中川黄庵	ろ2204 - 0005	S14.1.16	虎文斎	再版、中川黄庵は淡路の 人
S14.7.11	時代小説評判記	三田村鳶魚	2419 - 0003	S14.4.25	梧桐書院	1円80銭
S14.7.11	(久恒翁採存16)女歌舞伎	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 016			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存17)人形芝居	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 017			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存18)「人形つ かひ」	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 018			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存19)舞台と道 具	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 019			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存20)近松研究	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 020			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存21)近松以後	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 021			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存22)説教節	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 022			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存23)祭文	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 023			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし
S14.7.11	(久恒翁採存24)豊後節	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 024			天王寺吾東紙店用箋、天 ・小出用箋等使用、題 籤には巻番号なし

受入年月日	図書名	著者等	図書番号	刊記	出版社	備考
S14.7.11	(久恒翁採存25) 振付	小笠原久恒	ろ2140 - 0001 - 025			天王寺吾東紙店用箋、天・小出用箋等使用、題箋には巻番号なし
S14.7.11	緯山吟章	裕山堂主人	ろ2216 - 0026	天保8刊	甘雨亭蔵	
S14.11.4	しもふさ身旅喰 付解説	市川團十郎 (七世)	ろ0048 - 0013	天保13.9	幡谷村成田屋七左衛門刊	「忍頂寺蔵書章」印、帙題箋は務自筆、「付解説」は務論文抜刷 S14.11.4寄贈、抜刷表紙に務により「しもふさ身旅喰 忍頂寺静村著」と記載あり。、現在書道美術館保管・貴重書、解説と併せ2冊
S17.3.26	遠々見ます	市川團十郎 (七世)	ろ0048 - 0010	天保3刊		受入区分に「購入」とあり。但し寄贈印
不明	播磨の鬼追	河本正義	6633 - 0005	S8.5.15	兵庫県民俗研究会	ペン書「寄贈忍頂寺務氏」

## 資料 瞥見

以下、調査の際確認しえた事項ならびにその後の調査で確認しえた事柄を踏まえ、資料本文等を摘記紹介しておきたい。

### 《1》 『久恒翁採存』 『北海道関係文書』

『久恒翁採存』全二十五冊は、昭和十三年七月に十五冊、昭和十四年七月に十冊と二度に分けて「成田図書館」に寄贈されている。

大阪大学所蔵『久恒翁採存』五冊のうち「国歌総目録」(一〇八)冒頭には忍頂寺務により全体目録等が記されるが、以下の記載がある。

一、久恒翁採存 七十巻

内四十巻 昭和十三年四月六日 神戸市立図書館に寄贈す

残り三十巻 静村文庫保有す 印十五冊成田寄付

昭和十三年六月廿日

(一部略)

一、北海道関係文書 二巻

成田図書館へ寄贈す

当然のことであるが、「成田図書館」の寄贈印は受入の時期を示しているものであり、「昭和十三年六月廿日」という記載は、最初に成田図書館へ務が送付した日時ということだろう。同十三年六月に、務は成田図書館へ寄贈した『北海道関係文書』に附記(自筆)を残している。第二冊目後ろ表紙見返し部にある附記を引いておこう。

本書式冊 元北海道庁文書課長小笠原久恒翁ノ蔵書也原稿の多くは全

氏起草に係ると云ふ、全人逝去後、古本屋に散佚せしを購求して新たに製本せしものなり

昭和十三年六月 印「忍頂寺蔵書章」

この記述に拠れば、古本屋に散逸していたものを購求し、わざわざ製本を施したうえで寄贈していることになる。同一の体裁（朱表紙）により『久恒翁採存』も製本されており、両書ともども、すべて務により取り纏められ製本に付されたと考えて宜しかろう。

小笠原久恒翁については、『久恒翁採存』各冊冒頭に記された活版刷文書 署名はないが忍頂寺務と目される に詳述される。

本書は小笠原久恒老人の筆録なり、翁は弘化三年淡路国洲本に産る、旧阿波藩の洲本城代家老稲田九郎兵衛家（現男爵）の土臣なり、初め守井新助と称し、後に小笠原少と改む、明治三年稲田騒動あり、同四年主家の日高国静内郡に移住を命ぜらるゝや、之に随従して北海道に転じ、開墾事務所役人として、産物局主務（三級五両）に任ぜらる、晩年大阪市天王寺区南和園に閑居し、又神戸市平野祇園に隠棲せしが、昭和十二年此処にて死去す、享年九十二歳、父は守井攀と云ひ、久儒と号す、徳島の竹内家より入籍したる人にして、篠崎小竹、藤谷竹溪など、交友ありき、母は守井氏、その名を詳にせず

昭和十二年十二月十二日記

『久恒翁採存』をみるに、久恒翁により、「天王寺吾東紙店用箋」「天・小出用箋」等の用箋を用いて筆記されており、その晩年、大阪市天王寺区に閑居してから作成されたものと思しい。淡路出身の小笠原久恒は、その父が篠崎小竹などとも交友あった人物であったことを鑑みても、務にとつてゆかしい人物だったとの可能性も考えられる。

『北海道関係文書』二冊の内容であるが、「北海道開拓始末」や「北海

道開拓意見具申書」、明治二十四年六月十一日付総理大臣松方正義等宛北海道庁長官永山武四郎文書の起草案数種など、北海道庁文書課長職として、当時の公文書の下書きを担った久恒が、退職後も保管していた文書類などが取り纏められており、開拓事業に関する当時の状況を伺い得る貴重な資料と言える。

《2》 「富士のや草紙」について 務と板愈良

成田図書館に纏まって所蔵される「富士のや草紙」三十一冊（全三十九冊のうち）、ならびにその別集「富士のや文庫」三冊は、一冊一冊の特集も愉しく、謄写版多色刷の美しい個人刊行雑誌である。発行者の板愈良は、むしろ孔版画家・玩具収集家の板祐生と云う方が有名かもしれない。平成七年に開館した「祐生出合いの館」（鳥取県西伯郡南部町下中谷一〇〇八）には、祐生の謄写多色刷の作品（蔵書票・絵曆など）や蒐集したポスター・郷土玩具などが展示公開されている。祐生（本名愈良、龍齋とも号す）については、山口昌男『内田魯庵山脈』（二〇〇一年昌文社、のち二〇一〇年岩波現代文庫）に「尋常小学校分教場の趣味宇宙」と題し紹介されている。その言を借りるならば、祐生は「蒐集の精神、それも、金銭にかかわらずレベルでの、博物学における大コレクター」であった。鳥取県西伯郡南部町で明治二十二年に生まれ、生涯のほとんどを同地で過ごし、地元を離れなかつたと云う。法勝寺尋常小学校山田谷分校等の教員生活の傍ら、明治の末頃より当時流行の記念絵葉書、古銭などの蒐集をはじめ、関西を地盤とする趣味のグループ「珍道楽」との交流や、三田平凡寺（三田林蔵）の創設するところの趣味人の会「我楽他宗」にも参加し、いつそう玩具その他の蒐集に励んだとされる。鳥取の地から離れず、全国の趣味の友と連

絡を取り合うという、書簡等による交流の中で様々に寄贈をつけ成立したのが、四万点にも及ぶというコレクションなのであった。彼自身、学校の副教材を刷るのに用いた謄写版を用いて作品を創作。独自の世界を切り開いた。そのなかで個人発行の謄写版雑誌『富士のや草紙』は、会員頒布の非売品であったが、その巻末には常に寄贈をうけた書名・品名とその寄贈者（応援者）へのお礼の言葉が列ねられており、その誠実な人となりを知ることができる。

さて、務との交流が始まったのは何時のことであつたらうか。

：忍頂寺務氏は昨秋坪井大人の紹介にて知遇を忝ふしたが、紅隈歎語を見られて御秘蔵の演芸画報の色刷口絵を十年間もお貯へになつて一冊に製本せられたもの（二百二十余枚）を割愛せられ。又歌舞伎研究を十二、十三、十四、十五、十七、十八の六冊其他彗星、東京新誌等を寄せられて富士のやの為に声援激励をして頂いたことは肝銘に堪えぬ。（傍線引用者）

『富士のや草紙』第十四「魚硯」（昭和三年三月刊行）巻末記事から引用した。文中の「紅隈歎語」は『富士のや草紙』第十一「紅隈歎語」（昭和二年十一月刊）のこと。同誌に坪井禿山「隈取小話」という小論が掲載されており、その坪井からの紹介をうけて交流が始まったようだ。直ぐに務は『演芸画報』色刷口絵集の製本したものの、「歌舞伎研究」「彗星」「東京新誌」などを寄贈している。

この『富士のや草紙』第十二「紅隈歎語」は、昭和二年八月、鳥取県米子の朝日座で松本幸四郎や実川延若をはじめとする東西歌舞伎の一座の山陰巡業をしたことを記念して作成された冊子であった。「昨秋坪井大人の紹介にて知遇を忝ふした」とあるように、務は、第十一「紅隈歎語」刊行以降の「声援激励」者であった。成田山仏教図書館に所蔵される第二丁五、

九、十の六冊はバックナンバーとして購入したものである。第十二巻以降で三十七、三十九巻は未詳。第十九巻「佐渡」は現在、大阪大学図書館小野文庫に収蔵されている。

以下、『富士のや草紙』末尾記載に確認しえた務寄贈の書冊を掲載しておく。成田山仏教図書館所蔵本に限つてのことである点、ならびに忍卒の間に確認したものゆえ、遺漏もあることはお許しいただきたい（……）は他者の寄贈紹介等のため省略したことを示す。

富士のや草紙第十八「柳娘」（昭和三年九月刊行）

趣味喜録 書冊誌御寄贈御礼 浮世絵三号《忍頂寺務氏》： 彗星四月号。歌舞伎研究《忍頂寺務氏》： 歌舞伎研究廿三輯《忍頂寺務氏》： 以上五月中 東京新誌、彗星五月号、医学三十三、三十四《忍頂寺務氏》： 以上六月中 戊辰展目錄外数種、彗星六月号《忍頂寺務氏》： 以上七月中 彗星八月号《忍頂寺務氏》： 以上八月中

富士のや草紙第貳拾「碧壺歎」（昭和四年二月刊行）

：このつまらぬ富士のやを喜ばせるため、いろ／＼の趣味品をおめぐみ下さつた方々： 只氏名を拝記してお礼に代へます。昨年五月より十二月に亘りてのことでありませぬ。： 忍頂寺務氏

富士のや草紙第二十七「白馬帖」（昭和五年七月刊）

「昭和四年を回顧して」書籍及雑誌 演芸叢誌 忍頂寺務氏： 彗星（江戸生活研究）三年ノ七、十一、十二、四年一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一 忍頂寺務氏

雑 外国郵券 忍頂寺務氏

富士のや草紙第三十一「天筆和合楽」（昭和七年三月刊）

忍頂寺務氏 彗星（十二月号、一月号）。医学。天神信仰と浮

世絵。江戸文化。海の日本。其他諸誌。

富士乃屋草紙第三十四「青鳩調」(昭和七年八月刊)

忍頂寺務氏 歌舞伎隈取大観(高級美本)。各種雑誌。

富士のや草紙第三十六「魚拓」(昭和七年十一月刊)

海の日本其他 忍頂寺務氏：全氏御写真・日本及日本人二冊 忍頂寺務氏

頂寺務氏

富士のや草紙第三十八「萌黄綸子」(昭和八年四月刊)

心中くどき 忍頂寺務氏

たとえば「外国郵券」なども板祐生のコレクションであった。貿易に携わっていた務からの寄贈も有難く拝受したに違いない。

務の文章も『富士のや草紙』に掲載されている。第三十号「人形浄瑠璃覚帳」(昭和六年九月廿八日印刷、昭和六年十月八日発行)には三頁にわたり昭和五年一月廿五日付、板龍齋(註 愈良)宛、淡路島守書簡が載る。同誌には多くの同好が投稿しており、時には務の例のように、愈良(龍齋)宛の私信をも謄写版にされて公にされている。川崎巨泉や齋藤昌三、坪内逍遙からも寄贈を受けている。一つ一つその交流(寄贈)の事を記述している点は、当時の文化的交流の様相を復元していこうとする立場からすれば、貴重な情報に溢れていると言つて宜い。昭和前期における文化研究の一つの有り様を、板祐生の蒐集、ならびに謄写版通信として個人誌の刊行に見ることができるのである。忍頂寺務も、そうした板祐生のコレクションを支えた支援者の一人だったのである。

### 《3》 書き入れ、そのほか

以下、蔵書中、務による書き入れなどのあるもの三点を紹介しておこう。

『関東兵衛』第二(昭和九年二月刊)の後ろ表紙に務による書き入れがある。

「西鶴諸国はなし」巻三の五に P359

女房はより取、旅芝居の若衆もくる、はやり哥の、やるかしなの、雪国をつたひあかして、さむひと、ひたるひともしらず、

『兵庫県民俗資料』四(兵庫県民俗研究会編、昭和七年八月刊)

務により刷りの悪い処に重ね書、線引あり。

掲載論文中、鷲尾三郎「武庫郡鳴尾村盆踊」の文章中、「音頭は兵庫くどきと呼ばれ」の表現に朱線引。論中における「ゑびや甚九」の引用齧頭に註として、「原唄兵庫くどき」と務自筆で記す。

同号掲載、鷲尾三郎「武庫郡越木岩盆踊音頭」の文中に引用された「坊主おとし」の引用齧頭に註として、「原唄は兵庫くどき」にありと自筆で記す。

抜き書きではないが、務所蔵本が謄写刷になっていることが確認できた。務の友人である川嶋右次(禾舟)編輯発行、畠田藤左衛門著『淡路古城記』謄写刷一冊(昭和十二年十月)がそれである。その序文に忍頂寺祖先に関する記載も確認できたため、参考までに引用しておく。

本書の原本は、淡州浦村の庄屋、畠田藤左衛門の編纂にして、忍頂寺務氏の蔵なり。古城記を記載すること頗る多く、その記事も亦之を「味池草」「淡路草」などに比すれば遙かに詳細である。されば郷土史の研究資料として極めて有益なるを認めらる。

由来、忍頂寺氏の祖先は、摂津島下郡忍頂寺村の出で夙に、淡路に移

り志筑に住す、嘗ては戦場に馳駆し、武勲を輝かした祖先もある。又彼の頼山陽、篠崎小竹など、交遊せし忍頂寺広業(号、土崇)は務氏より三代前の祖である、現に是等交友間の尺牘は今尚同氏の珍襲に属する。

本書を印行頒布するやうになつたのは勿論氏の厚意であるが、その努力は一に桜谷忍氏に負ふ処である。 昭和十二年九月 川嶋禾舟識

おわりに

それにしても、なぜ務は、架蔵の書籍などを寄贈してゆくのだろうか。公共の図書館のみに限らない。本考察の板愈良や、友人川嶋禾舟などにも蔵書を分かつていたことが確認されている。想像するに、あるいは務自身が『延寿清話』第一冊に陳べているところにその拠り所を覗い得るのではないか。

序文の代りに申上ます。

本書は、私の研究と日記の一部を収録した、甚つまらぬお粗末なもので有ります。元来私は貿易商で、文学方面は素人の事ですから、相違つた言論が多々有るかも知れませぬ。もと一個人の秘記として置きたかつたのですが、寧ろ広く御教示を仰ぐ機会を得て、後に訂正する事が出来れば、却て有難い仕合せと存じて、印刷する事にしました。(略)出版部数は左様な訳で少ないのですから、もし不必要になりましたら、手近の図書館に寄附するか、又は郵税先払ひで、私方へ送り返して下され度いと存じます。 大正十三年三月

かくいう決意を述べた務であるがゆえに、自身の手許の書籍なども次々と寄贈していったとすればどうだろうか。書物にすることが甚だ困難な時代、

謄写版刷りにせよ、活版刷りにせよ、その手間と労力、金銭的負担は相応のものであつたらう。その労苦を思い知る務なればこそ、不必要になつたからといって棄てることなど考えるはずもなく、寄贈先を求めたのではなかつたらうか。こと成田図書館への寄贈については既に福田安典氏論考にて次のような指摘がある。

「成田」への寄贈という行為そのものに楽しさを感じているように見受けられるのである。そして、この成田という属性から想起されるもの、それはやはり垣十郎への追慕であらう。

加えて指摘できるのは成田図書館が私立図書館として、石川照勤初代館長の蔵書および全国から寄贈された図書によって開館したという点である。片々たる資料をゆるがせにせず残してゆく。そうした側面は、たとえば『北海道関係文書』に記された務の文言「古本屋に散佚せしを購求して新たに製本せし」という姿勢にも示されている。そうした営為そのものに、忍頂寺務の、蔵書家としての一面を垣間見るのである。